

4. 研究会・国際会議等

2016年度に理化学研究所（理研）及び高輝度光科学研究センター（JASRI）が主催あるいは共催した、SPring-8/SACLAに関連した研究会及び国際会議は表1、2の通りである。

また、2016年9月14～16日にかけて第16回APS-ESRF-SPring-8-DESY三極ワークショップがドイツ・ハンブルグのDESYで、2016年10月24～26日にかけて第8回XFEL5極ワークショップが韓国・浦項のPALでそれぞれ開催された。

1. SPring-8シンポジウム2016(2016年8月29日～30日)

SPring-8シンポジウム2016では、“放射光が解く環境・エネルギー問題”と題し、持続可能な社会の実現に向けた科学技術の挑戦について、基礎科学の探求から産業応用までの幅広い放射光の利活用についての講演が行われた。さらに、SPring-8における新たな利用研究、

将来計画について施設側から発表が行われた。また、ポスター発表では、SPRUC研究会の研究報告とともに、SPring-8の施設側からビームラインの現状および高性能化の報告、専用ビームライン、パワーユーザー/パートナーユーザー、長期利用課題による最新の研究成果等について発表が行われた。

参加者数は331名であり、2日間で110件の発表が行われた。

表1 理研及びJASRIの主催あるいは共催による会議等一覧

開催期間	会議名
2016/8/29-30	SPring-8シンポジウム2016
2016/9/5-9/6	第8回日本放射光学会 放射光基礎講習会
2017/1/7-9	第30回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム

表2 SPring-8セミナー

開催回	開催日	発表者名	所属	発表タイトル	担当者名
第250回	2016/7/13	Devashibhai Adroja	ISIS Facility, Rutherford Appleton Laboratory	Inelastic neutron scattering investigations of an anisotropic hybridization gap in the Kondo insulators: CeT ₂ Al ₁₀ (T=Fe, Ru and Os)	筒井 智嗣
第251回	2016/8/1	宝野 和博	物質・材料研究機構	Materials challenges for next generation high-density magnetic recording - media and readers	中村 哲也
第253回	2016/8/17	徳永 智春	名古屋大学	SOFC燃料極における炭素析出メカニズムの解明と水素生成用炭素触媒の可能性	櫻井 吉晴
第249回	2016/8/19	高橋有紀子	物質・材料研究機構	FePt-C媒体における円偏光誘起磁化反転	大河内 拓雄
第252回	2016/8/25	安藤 康伸	産業技術総合研究所	情報科学的手法のマテリアルシミュレーション解析への応用—スペクトル分類と複雑イオン拡散経路探索—	豊木 研太郎
		永田 賢二	産業技術総合研究所	ベイズ推論に基づくスペクトル分解	
第254回	2016/8/25	金子 耕士	日本原子力研究開発機構	高性能パルス中性子を活かしたEu化合物研究の新展開	水牧 仁一郎
第255回	2016/9/26	塩見淳一郎	東京大学	ナノスケールや界面における熱フォノン輸送—微視的な解析、測定、およびマテリアルズ・インフォマティクスへの展開—	水牧 仁一郎
第258回	2016/11/4	Keihan Tavakoli	SOLEIL	Introduction to SOLEIL with a focus to the latest activities in the engineering department in relation with instrumentations used in the beamlines and the storage ring	高橋 直
第256回	2016/11/7	Moritz Hoesch	Diamond Light Source	Angle-Resolved Photoemission Spectroscopy at Diamond Light Source, the example of quasi-one dimensional Ti ₂ Mo ₆ Se ₆	木下 豊彦
第257回	2016/11/14	Alexander Rack	European Synchrotron Radiation Facility	The ESRF Upgrade Program EBS: new horizons for time-resolved X-ray imaging	上杉 健太郎
第259回	2017/1/11	Jozef Uličný	University of P.J. Šafárik	Toward an understanding of DNA architecture in living cells: from modeling to direct X-ray imaging	関口 博史
第260回	2017/2/15	中谷 健	日本原子力研究開発機構	J-PARC MLFの実験制御・データ管理システム	横田 滋
		鈴木 次郎	高エネルギー加速器研究機構	データ解析システムとNeXus	
第261回	2017/3/7	田口 武慶	リガク	ハイブリッド型多次元ピクセル検出器HyPixの開発	杉本 邦久 増永 啓康
		太田 昇	JASRI	ハイブリッド型多次元ピクセル検出器HyPix-3000の利用報告	
第262回	2017/3/23	Michael James	Australian Synchrotron	What's Brilliant and BR-GHT at the Australian Synchrotron	坂田 修身

2. 第8回日本放射光学会 放射光基礎講習会

(2016年9月5日～6日)

第8回日本放射光学会 放射光基礎講習会では、「初心者のための放射光科学入門 基礎から応用まで」という副題の通り、全体を基礎編と応用編に分けて開催した。基礎編においては、放射光を新たに利用して研究開発を始めようとしている学生・研究者に向けて、放射光の特性をフル活用するために必要な基礎知識を学べるコースとした。また、応用編では、放射光を利用した基礎・応用研究のホットな話題について、最前線で活動している研究者から紹介があった。

参加者は68名であり、2日間にわたって基礎編・応用編を合わせて9件の講義が行われた。

3. 第30回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム (2017年1月7日～9日)

第30回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムでは、2つの特別講演で始まり、SOR-RINGが2016年度分析機器・科学機器遺産に認定されたことを記念した特別講演が行われた。2日目からは企画講演と一般講演が行われた。企画講演では「次世代光源と期待されるサイエンス」、「IR/THz-FELの現状と今後の展望」、「キラリティー科学から低エネルギー回折限界光源への期待」、「産業界の分析ツールとしての放射光利用の在り方」の4件に200名前後の聴衆が集まり、活発な議論が行われた。

市民公開講座は、“見てみたいを叶える力「放射光」一解き明かされる生命の仕組みー”というテーマで開催され、SPring-8/SACLAを生命研究で活用している3名の研究者から講演があった。

また、例年開催期間中には、共催団体のユーザーコミュニティの会合が行われるが、2016年度の本会では「SLiT-Jユーザーコミュニティ (SLiT-JUC) 発足式」が開催された。

3日間で2件の特別講演、4つの企画講演に27件の発表、一般講演は9件の招待講演を含め口頭発表が127件、ポスター発表者244件、施設報告19件が行われ、参加者は689名であった。

理研 放射光科学研究推進室